

令和7年度重点施策評価シート（令和6年度実施分）

基本目標1 しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする

数値目標	社会動態を8割程度改善させる。					
基準値	H26～H30の転出超過数 1,021人 (5カ年平均204人)	R2	R3	R4	R5	R6
		69人	153人	120人	143人	128人
分析	令和6年の転出超過は128人で、前年の143人に対して15人転出超過人数は抑制された結果となった。しかしながら長年続いている若者世代、特に高校を卒業した世代の転出超過傾向は引き続き継続しており、若者定着を促進するため、雇用条件や就労条件の改善を図りながら、町内での若者の就労を促進する。移住希望者に対する移住後の生活を含めたライフプランに関する情報提供の取り組みを併せて強化していく必要がある。					

重要業績評価指標（KPI）全体評価

※B未達成① 達成率80%以上 C未達成② 達成率80%未満

しごとプロジェクト全体

KPI数	把握困難	評価数	A達成	B未達成①	C未達成②	D把握困難
21	0	21	6	7	8	0

うち再掲

1

【内訳】 施策1 地域を支える産業の競争力強化

水産業の競争力強化

KPI数	把握困難	評価数	達成	未達成①	未達成②
6	0	6	2	2	2

農林業の競争力強化

KPI数	把握困難	評価数	達成	未達成①	未達成②
7	0	7	2	1	4

商工業の競争力強化

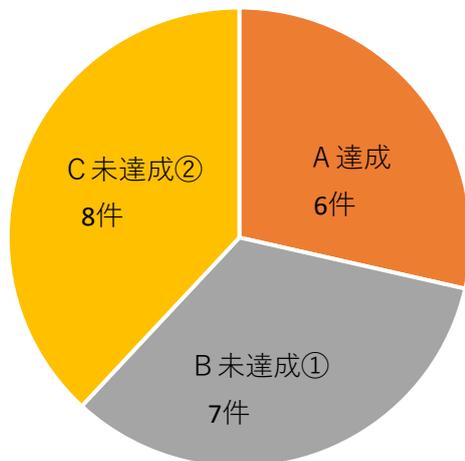
KPI数	把握困難	評価数	達成	未達成①	未達成②
2	0	2	1	1	0

施策2 地域の産業を支える人材と雇用の確保

地域の産業を支える人材と雇用の確保

KPI数	把握困難	評価数	達成	未達成①	未達成②
6	0	6	1	3	2

しごとプロジェクト



KPI数 21件

重要業績評価指標 (KPI) 個別評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。
 ※No. に◇印がついた目標はH30からの減少幅を比較し達成率とする。

施策1		地域を支える産業の競争力強化							
		水産業の競争力強化							
No.	指標名	H30 基準値	実績値の推移 上段：目標値/下段：実績値					達成率	
			R2	R3	R4	R5	R6		
1 ★	漁業担い手確保	8 人	12 13	13 13	14 14	16 14	18 18	100.0%	A
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
-			-						
2	種苗放流 (魚類)	116 千尾	117 124	117 123	117 88	118 162	118 97	82.2%	B
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
放流が実績目標を下回った主な理由としては、漁業者の魚価所得向上を図るため、放流魚種をカサゴから他魚種 (キジハタ等) に変更したことなどが考えられる。			放流魚については、根魚ということもあり放流直後の乱獲が心配される。 本事業の実施と並行して、漁業者による一層の漁業秩序形成と漁業監視体制の強化を推進していく。						
3	種苗放流 (介類)	96 千個	96 65	96 68	97 85	97 67	97 87	89.6%	B
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
実績が目標を下回った主な理由としては、貝類の餌となる藻場 (海藻) の回復が見られない中、アワビ放流を縮小したことが要因である。一方で、アワビよりもサザエ種苗を望む漁業集落が増えたが、上五島あわび中間育成施設の令和6年度未閉鎖に伴い、生産のタイミングが合わず、県内種苗センターも生産していないことから貝類放流数が減少した。			貝類の餌となる藻場 (海藻) の再生及び回復が喫緊の課題であるが、有害生物の駆除などの取組みを実施しているが、回復にはいたっていない。 アワビの餌となる藻場 (海藻) の再生及び回復を推進しつつ、並行してサザエのように小型海藻でも成長する種苗に移行する要望もあるため、県内外を通じて種苗の入手に努めたい。						
4 ◇	町営漁港	18 港	18 18	16 18	16 18	16 18	15 18	0.0%	C
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
水産基盤整備事業において、緊急性、必要性の説明はもとより、重点化についても整理が必要となっている。また、機能保全事業をはじめとする多くの公共事業において、採択要件の港勢を規定しているものが多く、採択要件に満たない漁港の取扱いが問題となっており、採択要件に満たない漁港について、漁港合併を進めていく必要がある。合併予定の3漁港の平面図作成 (令和5年3月) は完了している。			世界測地系に基づく経緯度表示に変更した平面図作成の必要があるが専門業者への外注が必要であること、漁港機能分担の整理が困難な箇所がある。漁港合併に関する各漁協との下協議は済んでおり、合併予定港における機能分担の整理、世界測地系に基づく経緯度表示の図面作成が必要である。						
5 ★	魚類養殖生産数	2,672 トン	2,708 3,232	2,744 4,812	2,779 4,747	2,815 3,838	2,851 3,653	100.0%	A
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
-			-						
6 ★	観光定置設置数	0 か統	0 -	1 1	1 1	2 1	3 1	33.3%	C
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
インバウンド需要と国内のサービス消費も回復する中で、有川町漁協自営定置網の体験メニューは、人員の確保等が困難で休止となっているが、奈摩湾において、上五島地区漁業集落が運営している釣り体験メニューは、継続して行われているほか、上五島地区及び有川地区漁業集落においてアオサ養殖を実施しており、今後の地域資源活用による漁村の活性化に期待するところである。また、新上五島町観光物産協会のホームページにおいて、青方港釣り文化振興モデル港の沖防波堤釣り体験などが紹介されている。			観光客の誘客推進と新たな人員の確保が必要である。関係団体と連携して、積極的なPR活動等を実施していく。						

重要業績評価指標（KPI） 個別評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

施策1		地域を支える産業の競争力強化							
		農林業の競争力強化							
No.	指標名	H30 基準値	実績値の推移 上段：目標値/下段：実績値					達成率	
			R2	R3	R4	R5	R6		
1	就農相談会の定期開催	2 回	2	2	2	2	2	100.0%	A
			1	2	2	2	2		
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
-			-						
2	耕地面積	207 ha	207	207	207	207	207	94.2%	B
			195	195	195	195	195		
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
荒廃農地の復元による作付拡大を推進し、令和6年度は0.1265haを解消することができたが、就農者の高齢化が進み、新規就農者より離農者が増加傾向にあり、耕地面積の実績値が減少している。			新規就農者の確保や担い手の育成に向け、関係機関と連携を図り継続的に就農支援を実施する。						
3 ★	直売所会員数	155 人	161	164	167	170	173	0.0%	C
			158	148	145	144	126		
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
イノシシ・シカなどの有害鳥獣や基腐れ病などによる農作物の被害が多く、収穫量が減少した。また、会員の高齢化による離農や作付けの減少が会員数の減少に繋がっているものと思われる。			直売所新規会員を増加させるため、五島振興局、JAと連携し、野菜・果樹栽培講習会や相談会を開催し、入会の勧誘に引き続き努めていく。						
4	有害鳥獣捕獲頭数	4,500 頭	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	100.0%	A
			4,767	4,619	4,696	4,515	5,010		
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
-			-						
5 ★	家畜市場への子牛出荷頭数	77 頭	91	95	98	102	105	0.0%	C
			61	71	68	73	68		
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
病気等の早期発見による診療や、関係機関による経営診断等を行ってきたが、子牛の死亡事故や子牛価格の低迷などにより目標値を下回ってしまった。			雌牛の高齢化が進んでいるため、新たな雌牛の導入が必要であるが、導入費用や維持管理費用の問題もあり増頭が進まない状況にある。各種補助事業や自家保留等により定期的な雌牛の入れ替えを行うことで出生頭数の増加を促していく。						
6 ★	繁殖雌牛頭数	125 頭	130	135	140	145	150	0.0%	C
			118	105	110	105	106		
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
補助事業を活用し増頭を行ったが、導入後の経費の問題などがあり目標頭数を下回った。			飼料価格の高騰などによる経費負担が増えたことにより、生産基盤の弱体化が懸念される。繁殖雌牛の増頭のため、畜産農家の経営状況の把握に努め、各種支援制度の周知活動を行いながら生産力の強化に繋げていく。						

重要業績評価指標（KPI） 個別評価

施策1		地域を支える産業の競争力強化							
		農林業の競争力強化							
No.	指標名	H30 基準値	実績値の推移 上段：目標値/下段：実績値					達成率	
			R2	R3	R4	R5	R6		
7 ★	利用間伐面積	0 ha	30	40	40	40	40	42.5%	C
			17	20	17	18	17		
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
<p>町有林のみを考えた場合、目標値としては下回っているが、私有地、県営林、林業会社の経営林も含めた一体的な整備を実施しており、管内全体の森林整備としては向上している。</p>			<p>林業事業者、林業従事者の不足が大きな課題であるが、一朝一夕で解決する問題ではない。各種補助事業を活用し、担い手不足問題に取り組んでいく。</p>						

重要業績評価指標（KPI） 個別評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

施策1		地域を支える産業の競争力強化							
		商工業の競争力強化							
No.	指標名	H30 基準値	実績値の推移 上段：目標値/下段：実績値					達成率	
			R2	R3	R4	R5	R6		
1	商工会会員数	618 人	618	618	618	618	618	89.6%	B
			613	593	583	574	554		
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
<p>人口減少および高齢化等に伴う町内市場規模の縮小、消費者ニーズの多様化及び流通の発達による通信販売利用者の増加、大型店への消費者集中、後継者問題や高齢化等による廃業などの影響により商工会会員数は年々減少傾向にある。</p>			<p>後継者問題、事業者の高齢化による廃業が懸念される。商工会と連携し、DXをはじめとする持続可能な経営改善支援、第三者承継等の事業承継の取組推進、経営改善に関する研修会等の開催、また、後継者の育成や事業者の経営意欲向上を図るため、商工会への補助事業を継続し支援していく。</p>						
2 ★	地場産品販売額（年間）	1,699 百万円	1,709	1,719	1,729	1,729	1,729	100.0%	A
			1,630	1,539	1,788	2,026	1,954		
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
-			-						

重要業績評価指標 (KPI) 個別評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

施策2		地域の産業を支える人材と雇用の確保							
		地域の産業を支える人材と雇用の確保							
No.	指標名	H30 基準値	実績値の推移 上段：目標値/下段：実績値					達成率	
			R2	R3	R4	R5	R6		
1 ★	新規雇用者数（累計）	144 人	300 267	460 374	630 495	810 517	1,000 549	54.9%	C
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
全国的な物価高騰・原料費の高騰などにより島内の雇用状況は決して良くはない状況にある。雇用機会拡充事業など各種事業により島内雇用の拡大に努めているが、目標の達成には至らなかった。また全国的に人員不足の状況があり、町内就業と比較し条件的に好条件となる島外・県外・都市部への就職を選択する方も多く島内においては深刻な働き手不足となっている。			従業員の確保に苦慮している事業者が多く、外国人就労者の力を借りて事業を継続している事業所などもあり、島内における働き手の不足は喫緊の課題となっている。雇用機会拡充事業、輸送コスト支援事業などの支援策を活用しながら島内産業の維持に努め、各業種の売上向上を図る事により従業員の待遇改善につなげる好循環を生み出し地域内雇用の魅力拡大を図る。						
2	つばきの植栽による耕作放棄地の解消	160 ㎡	1,000 150	1,000 1,500	1,000 1,700	1,000 100	1,000 836	83.6%	B
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
耕作放棄地において、管理者以外の第三者がつばきの植栽及び管理、収穫までを行うことができるシステムとして代理収穫制度を設け、広報誌やHPにおける案内を行ったが応募者がいなかった。 耕作放棄地4件836㎡においてのつばきの植栽に止まった。			今後、少子高齢化や人口減少による植栽の担い手等の確保が課題となってくる。 代理収穫制度の広報の強化や、町有地におけるモデル事業を展開する。						
3	つばき油の売上額	3,720 万円	4,000 4,786	4,250 4,768	4,500 4,008	4,750 7,059	5,000 4,693	93.9%	B
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
昨年は大手企業やその他の企業からの一斗缶の注文が多かったため売上額も多かったが、今年度は大手企業等も在庫を抱えていた関係上例年程の売り上げだった。			固定された販売顧客に満足することなく、新たな販路拡大を求め、宣伝や営業を行うことが必要である。原料である椿実の安定的な確保に努め、併せて更なる販路拡大を目指す。						
4	つばき関連商品の売上額	850 万円	900 627	950 569	1,000 942	1,050 1,124	1,100 1,079	98.1%	B
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
椿油加工品については順調に売り上げをキープしており、椿木工製品については主に各種イベント等において販売し、その認知度も高まってきている状況である。			椿油の原材料である椿実並びに椿木工品の椿木等を安定して確保していく必要がある。販売については各種イベントへの出店、商談会への出席を積極的に取り組むよう振興公社等へ促し、各種原材料の確保については、関係団体とも連携し安定的な確保に努めていく。						
5	直売所売上額	50,000 千円	55,000 42,082	55,000 41,128	55,000 41,157	55,000 38,489	55,000 37,582	68.3%	C
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
会員の高齢化による耕作地縮小や後継者不足が、農産物・水産物の品揃え不足に繋がっている。一時はイベント（感謝祭）も再開していたが、想定より売り上げが伸びないとして開催を見送っている。			会員の高齢化による農産物の出荷量減少及び水産物の漁獲量減少の解消。集客できるような目玉商品の開発や安定的な品揃えが必要。農水産物の集荷や新規会員の加入、仕入れを行い品揃えの拡充に努める。また、新商品等の開発、小規模なイベントの実施しにより、幅広い年齢層にも来ていただけるような直売所作りを目指す。						
6 ★	地場産品販売額（年間）※再掲	1,699 百万円	1,709 1,630	1,719 1,539	1,729 1,788	1,729 2,026	1,729 1,954	100.0%	A
KPIが目標値を下回った理由			KPIを上昇させるための取組						
-			-						